

## 貯水工法比較表

工法	砕石貯留		プレキャスト式 コンクリート工法		地下式プラスチック貯留工法 (クロスウェーブハイ CW-H)	
貯水率	35%程度	△	75%程度	○	95%以上	◎
コスト	砕石自体は安いが土工事が多い	○	製品および土工事で負担が大きい	△	施工が簡単で土工事も最小限	◎
貯留形状	自由	◎	一定の製品規格に準じる	△	曲線、三角形などは不可	○
部材種類	砕石、透水シート	○	端部ブロック、中間ブロック、頂版スラブのプレキャスト部材、現場打ちコンクリートの底版及び端部	△	CW-H部材、透水シート	○
施工方法	砕石の搬入のみ	○	プレキャスト設置、現地コンクリ施工	△	積み上げのみ	◎
	<b>【概略工事フロー】</b> ①掘削工 ↓ ②透水シート設置 ↓ ③砕石貯留材設置 ↓ ④透水シート設置 ↓ ⑤埋戻し		<b>【概略工事フロー】</b> ①掘削工 ↓ ②プレキャスト壁ブロック設置 ↓ ③底版築造 (鉄筋+コンクリート+養生) ↓ ④プレキャスト頂版スラブ設置 ↓ ⑤PC緊張 ↓ ⑥埋戻し		<b>【概略工事フロー】</b> ①掘削工 ↓ ②透水シート設置 ↓ ③プラスチック貯留材設置 ↓ ④透水シート設置 ↓ ⑤埋戻し	
施工性	良好	○	工程多く複雑、コンクリートの養生期間が必要	×	非常に良好	◎
搬入車両	非常に多い	×	多い	△	少ない	◎
維持管理	基本的に維持管理ができない	×	内部まで人が入ることができるため、内部からのメンテナンスが可能	◎	沈砂マスを設置し前処理と柵を介して一部貯留槽内部の確認清掃が可能。	○
工期	砕石量が多い為、時間がかかる。	○	養生期間があり長い	△	積層方法が簡単で工期が短い	◎
総合	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 砕石の量が多いため、工期がかかる。</li> <li>・ 砕石は比較的安価の為、コストメリットはある。</li> <li>・ 鉛直土圧により、砕石の空隙が下がり、時間経過とともに貯水量が下がる可能性がある。</li> </ul>	△	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 十分な強度を要するが、工期が長くなる。</li> <li>・ 費用が高い。</li> </ul>	△	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地下式の砕石工法やコンクリート二次製品を使用した工法に比べ、安価かつ最短工期での施工が可能</li> <li>・ 部材が軽量の為、重機は荷降ろしのみで、積み立ては人力で行うことが可能。</li> </ul>	○